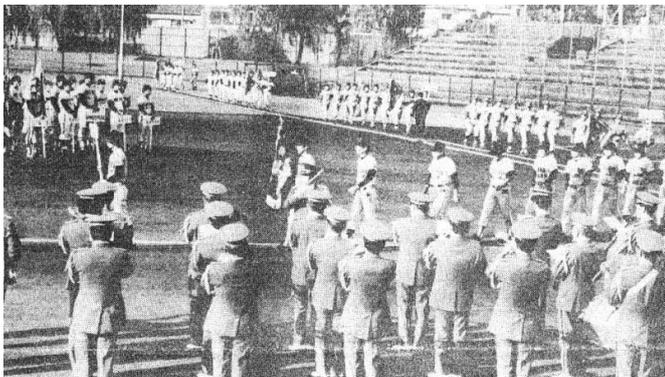
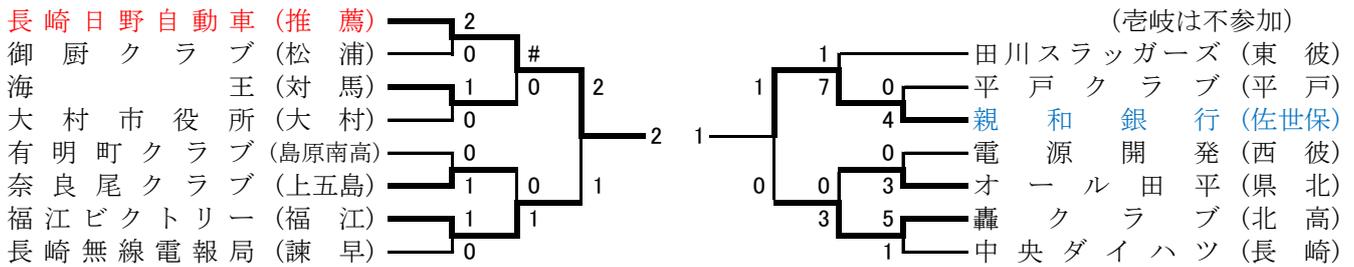


長崎日野の3連覇は決勝戦で親和銀行を3タテ

第31回長崎県軟式野球選手権大会

会期： 昭和56年11月21日(土)～22日(日)・順延24日(火)
会場： A・大橋球場 B・三菱球場



シーズン最後を飾る第31回県軟式野球選手権大会は21日から三日間の日程で始まり、開会式は午前9時より大橋球場で行なわれ県警音楽隊が演奏するマーチに乗って15チームの選手団が入場。国旗・連盟旗・長崎新聞社旗の掲揚、優勝旗・楯・松浦杯が前年優勝の長崎日野自動車から、準優勝旗が親和銀行から返還された。

主催者を代表して篠原修三・長崎新聞社専務が「県内260チームの中から選ばれた精鋭が一堂に集った。精魂を込め悔いのない試合をし郷土の期待にこたえてください」とあいさつ。長崎日野の中村郁郎主将が選手宣誓を行なった。(昭和56年11月22日付けの長崎新聞より抜粋)

【御厨】打安点

⑥二ノ瀬	3	0	0
⑤中山	1	0	0
H田中	1	0	0
⑨中野	3	0	0
②北川	3	0	0
①春藤	1	0	0
③松島	1	0	0
⑦浜本	1	0	0
H7萩尾	1	0	0
⑧正原	2	0	0
④森田	2	0	0
	19	0	0

日野拾いものの2点
御厨送球が走者の背中に

【一回戦】◇大橋：第1試合◇ 振球犠盗失併残

御厨クラブ	000 000 0	0	1	2	1	0	3	0	1	1時間2分
長崎日野自動車	000 200 X	2	2	1	1	0	0	0	6	

【評】日野は拾いものの2点で勝った。三回無死満塁の先制機を拙攻で逃した日野は四回一死満塁のチャンスにサインの不徹底から三走の鶴島が三本間に挟まれ、またまた好機を潰すかにみえた。ところが捕手の三塁への送球が鶴島の背中に当たりファウルグラウンドに転々とする間に二塁走者の木村まで生還した。これを古里が御厨打線をノーヒットに抑える好投で守り切った。御厨は好守にいま一つ力不足。

【日野】打安点

⑧岩下	3	0	0
⑥岡村	3	1	0
⑦樫本	2	0	0
H7川良	1	0	0
⑨有川	3	1	0
⑤鶴嶋	3	0	0
②岡田	2	0	0
③木村	2	0	0
①古里	3	1	0
④石本	2	1	0
	24	4	0

海王大村6回の反撃機つぶす 幸運の決勝点

【一回戦】◇大橋：第2試合◇ 振球犠盗失併残

海王	100 000 0	1	7	2	1	2	0	0	6	1時間38分
大村市役所	000 000 0	0	4	1	0	0	2	0	7	

【二】神宮

【評】勝負のヤマは六回だった。1点の先行を許した大村はこの一回一死後、両池田の連打で一三塁としたが池田由が二盗に失敗。西も三振に倒れてせっきくの反撃機をつぶした。何も一塁走者が二塁を狙う必要はなかった。海王の初回の先制点は安打の八坂が投手のけん制球で追い出されながらも野手のエラーで三進。永留のスライズで得たもの。大村は好投の牟田を見殺しにした。

【海王】打安点

⑥八坂	4	2	0
⑦岸原	3	1	0
②永留	2	0	1
①中庭	3	0	0
③森崎	2	0	0
④毛越	3	0	0
⑧神宮	3	1	0
⑨栗山	3	0	0
⑤井	2	0	0
	25	4	1

【大村】打安点

⑨安達	3	0	0
9高治	1	0	0
④坂野	3	1	0
②池田一	3	1	0
③池田由	3	2	0
⑤西正	3	0	0
①牟田	3	0	0
⑧西村	2	0	0
H西孝	1	1	0
⑦赤木	1	0	0
H吉沢	1	0	0
⑥浦	3	2	0
	27	7	0

【有明町】打安点

②吉田浩	2	0	0
①金子	2	1	0
⑦4宇土	2	1	0
⑧吉田正	3	0	0
⑥松本	2	0	0
⑤竹之内	3	0	0
③高見	3	0	0
⑨加藤	3	1	0
④酒井	1	0	0
H7吉田朝	2	0	0
	23	3	0

奈良尾2回に決勝点
津田祐がタイムリー

【一回戦】◇大橋：第3試合◇ 振球犠盗失併残

有明町クラブ	000 000 0	0	5	2	2	0	1	0	6	1時間9分
奈良尾クラブ	010 000 X	1	5	0	1	0	1	0	3	

【二】金丸、平田、宇士

【評】有明の小柄なエース金子は立ち上がり奈良尾を三者三振に打ち取る上々のすべり出し。ところが二回先頭の金丸に左越え二塁打。送りバントと一ゴロで二死までこぎつけたが、津田祐に中前タイムリーを浴びた。金丸にはストレート、津田にはカーブ。いずれも高めに浮くところを狙われた。この回を除けば五回に平田の二塁打のみ。ほぼ完璧なピッチングだったがこの1点が命取りとなった。

【奈良尾】打安点

⑧森	3	0	0
④金崎	3	0	0
②宮崎	3	0	0
⑤金丸	3	1	0
①平田	1	1	0
⑦松竹	2	0	0
⑥津田祐	2	1	1
⑨津田明	2	0	0
③鼻崎	2	0	0
	21	3	1

【無線】打安点

⑧田村	2	0	0
⑥四方	3	1	0
⑦岩井	3	0	0
②富高	3	0	0
①大石	3	0	0
③池田	3	1	0
④入江	2	0	0
⑨天達	3	1	0
⑤永江	2	0	0
		24	3 0

一死満塁制
ビクトリーに軍配

【一回戦】◇大橋：第4試合◇ 振球犠盗失併残

長崎無線電報局	000 000 00	0	8	2	0	0	1	0	5	1時間18分
福江ビクトリー	000 000 01x	1	6	1	0	3	0	0	3	

【評】両軍七回まで無得点。大会規定で一死満塁制となったが、長崎無線が延長八回にスクイズ失敗したのに対し、ビクトリーは富川がスリーバントに成功しサヨナラ決勝点をあげた。

長崎無線の大石は低目を丁寧につき、ビクトリー左腕の平山利は落差のあるカーブで見ごたえのある投手戦だった。長崎無線にとって惜まれるのは五回一死二三塁に永江のスクイズが投手の平山の好プレーにより実らなかったことだ。

【福江】打安点

⑧本岡	2	0	0
④坪内	3	0	0
②林	3	0	0
⑥富川	3	0	0
①平山利	3	0	0
⑤田村	3	0	0
⑨田上	2	0	0
⑦中尾	2	1	0
③山内善	2	0	0
		23	1 0

【平戸】打安点

⑧宮山	3	0	0
④松田	2	0	0
H江湖	1	0	0
⑥正木	3	1	0
⑦古川	3	0	0
①井手口	2	0	0
⑤大畑	2	0	0
②早田	2	0	0
⑨桑山	2	0	0
③江田	2	0	0
		22	1 0

親和、平戸クに快勝

【一回戦】◇三菱：第1試合◇ 振球犠盗失併残

平戸クラブ	000 000 0	0	3	0	0	0	2	0	1	1時間5分
親和銀行	040 000 X	4	0	4	0	6	0	0	5	

【評】五年ぶりの優勝を狙う親和銀行が機動力を使ってソツのない攻撃と、守ってはエース宮本が平戸クラブを安打1本に抑える好投で初戦を飾った。親和は二回に四球の宮添が二盗。小森の三ゴロで三進。宮本が右前に流し打って先制点。このあと平戸クに内野の乱れが出て労せずして3点を追加し勝負を決めた。

親和の宮本はテンポの速い間合いから小気味のいい投球で七回二死まで「完全試合」。平戸クは早打ちが目立ちもう一つ工夫が欲しかった。

【親和】打安点

④久住呂	3	0	0
⑧古川	1	1	0
⑤竹山	3	0	0
⑦坂井	3	0	0
⑨宮添	2	1	0
③小森	3	0	0
①宮本	3	1	1
②黒石	3	1	0
⑥岩崎	3	1	0
		24	5 1

田平6回に均衡破る

【田平】打安点

⑥下田	3	0	0
⑤山崎	3	1	0
⑦柴山	3	0	0
①稲沢	3	1	0
③福井	2	0	0
⑨橋口	3	0	0
②中村	3	1	1
②近藤	3	0	1
④山本	2	1	0
		25	4 2

電源開発は決定打欠く

【一回戦】◇三菱：第2試合◇ 振球犠盗失併残

オール田平	000 001 2	3	2	3	0	3	1	1	4	1時間27分
電源開発	000 000 0	0	0	1	1	1	4	0	6	

【三】山崎(電) 【二】中渡瀬

【評】一つのエラーが明暗を分けた。両チームともなかなか均衡が破れないまま終盤の六回。田平は一死二塁から山崎の右前打が後逸の間に二走の下田が還って先取点。これで波に乗った田平は七回にも敵失などで2点を挙げて粘る電源開発を振り切った。

電源開発は平均年齢が24歳。毎回のように走者を出しながら決定打に欠け守ってはエラーなど「若さ」が出たのが惜まれる。

【電源】打安点

⑥村田	3	1	0
④坂口	2	0	0
⑦中渡瀬	3	1	0
①梅野	3	1	0
②梶岡	3	0	0
③広兼	3	2	0
⑤渡辺	1	0	0
H川口	1	0	0
⑧梅田	2	0	0
H赤木	1	0	0
⑨山崎	2	1	0
		24	6 0

轟クラブ、2回に一挙4点



【一回戦】◇三菱：第3試合◇ 振球犠盗失併残

中央ダイハツ	000 010 0	1	4	1	0	0	2	0	5	1時間26分
轟クラブ	040 001 X	5	0	1	1	1	2	0	3	

【三】田端(轟)、原

【評】轟クラブのたたみかける攻撃は見事だった。二回の轟は一死後に川田が四球。三ゴロで二進し伊東の内野安打で二死一三塁と好機の芽を広げた。続く田端が初球を思い切り叩くと打球は左翼手頭上を越す三塁打となり二者生還(写真左)。中山と山口も連打してこの回に一挙4点。パワーあふれる打撃が光った。

一方の中央ダイハツは五回に敵失で1点は返したものの凡ミスが重なり力を出し切れないまま敗れた。

先制三塁打 2回裏の轟クラブは二死一三塁で田端が左越えに先制の2点三塁打を放つ

【中央】打安点

⑦瀬崎	4	1	0
③崎村	3	0	0
⑤上野	3	0	0
②酒田	3	1	0
⑥原	3	1	0
⑧小川	3	0	0
④馬場	2	0	0
4山田	1	1	0
①田端	3	3	0
⑨小林	2	0	0
		27	7 0

【轟】打安点

②中山	3	1	1
⑤山口義	3	2	1
⑥道副	3	0	0
⑧東川	3	0	0
③山口	3	1	0
⑦川田	2	0	0
①久世	2	0	0
⑨伊東章	3	1	0
④田端	2	1	2
		24	6 4

離島勢 快進撃

第31回大会は香岐が不参加の15チームで行なわれたが、福江、上五島対馬の離島3チームがベスト8に進出。第二日は五島同士の対戦がある。

日野打線が爆発 海王の2投手から10点

【日野】打安点

⑧岩下	2	0	0
H8中村	0	0	0
⑥岡村	3	1	1
①樫本	2	0	0
⑨有川	1	0	0
H9中村	1	0	0
⑤鶴嶋	2	1	1
②岡田	3	2	4
③木村	3	2	2
⑦川良	0	0	0
④石本	1	1	2
	18	7	9

【二回戦】◇第1試合◇ 振球犠盗失併残

長崎日野自動車	001 54	10	1	8	3	3	0	0	4	1時間10分
海王	000 00	0	4	0	0	0	2	0	1	(5回コールド)

【海王】打安点

⑥八坂	2	0	0
⑤井	2	0	0
②永留	2	0	0
①7中庭	2	1	0
③森崎	2	0	0
④毛越	2	0	0
⑧神宮	1	0	0
H高野	1	0	0
⑨栗山	1	0	0
⑦1岸原	1	0	0
	16	1	0

【三】岡田、石本 【二】中庭、岡田

【評】三連覇を狙う長崎日野の打線が爆発し大量10点を奪ってコールド勝ちした。三回の日野は中前打の木村が二盗とバントで三塁へ。スクイズを警戒しすぎた中庭の牽制悪送球で労せず先取。この1点が試合の流れを変えた。続く四回にも打者一巡し4本の長短打を集めて5点を挙げ中庭をKO。救援した岸原からも五回到四球と岡田の走者一掃三塁打などで4点を奪った。海王は日野の樫本のコーナーを突く投球に打線が沈黙し中庭の二塁打のみに抑えられた。

【奈良尾】打安点

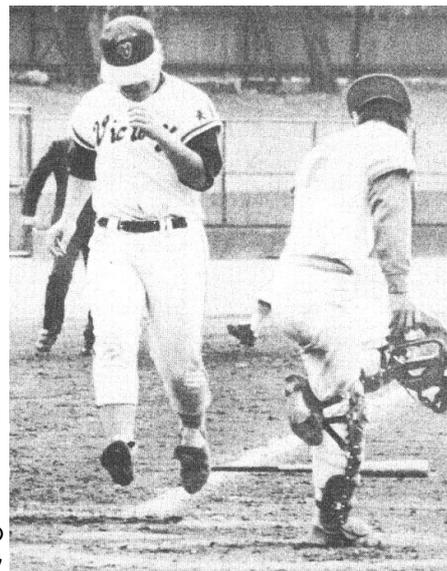
④金崎	3	0	0
⑧森	3	0	0
②宮崎	2	0	0
⑤金丸	3	0	0
①平田	2	0	0
⑦松竹	2	1	0
⑥津田祐	2	0	0
⑨津田明	1	0	0
H窄田	1	0	0
9植村	0	0	0
③鼻崎	2	0	0
	21	1	0

福江、サヨナラ勝ち 奈良尾ク平田の好投及ばず

【二回戦】◇第2試合◇ 振球犠盗失併残

奈良尾クラブ	000 000 0	0	1	1	0	0	1	0	1	1時間14分
福江ビクトリー	000 000 1x	1	3	3	0	1	0	0	4	

【評】五島同士の戦いは福江が最終回の七回裏の二死満塁から田上の二塁強襲安打が出てサヨナラ勝ちした。奈良尾の平田、福江の平山利両投手の好投で無得点のまま迎えた七回裏の福江ビクトリーは一死後に林が投手のグラブを弾く内野安打で出塁。すかさず二盗を試みて捕手悪送球を誘って三進。ここで奈良尾は二者を敬遠し満塁策をとった。二死後に田上の当りは二塁強襲安打となり熱戦に終止符を打った。奈良尾は松竹の安打1本だけ。走者が出ないのでは投手がなかった。



7回裏の福江ビクトリーは一死満塁に田上の二塁強襲安打で三塁から富川が還りサヨナラ

【福江】打安点

⑧本岡	3	0	0
④坪内	3	0	0
②林	3	1	0
⑥富川	2	0	0
⑤田村	2	0	0
①平山利	3	0	0
⑨田上	2	1	1
③山内善	2	0	0
⑦中尾	2	0	0
	22	2	1

地方の親銀、田川を下す

【二回戦】◇第3試合◇ 振球犠盗失併残

親和銀行	211 030 0	7	1	4	2	7	1	0	7	1時間28分
田川スラッガーズ	000 010 0	1	6	1	0	0	1	0	0	

【三】岩崎、宮添、黒石 【二】辻、黒石

【評】やはり地方の差か。親和は初回、先頭の久住呂が四球に二盗。古川のバントが捕手一塁悪送球を誘ってまず1点。さらに竹山の右前打と二ゴロ野選の満塁に辻の二ゴロで2点目。二回には岩崎、久住呂。三回にも宮添、黒石の長短打で各1点を加え序盤で勝負あり。あとの興味は今春に長崎商から親和に入った新人・佐々田のピッチング。四回まで3人ずつで片付ける快調ぶりだったが、五回到四球と安打の一二塁から二塁手のエラーが出て完封勝ちはならなかった。佐々田はスピードはあるがカーブが課題。

【田川】打安点

②佐藤	3	1	0
④6立石	2	0	0
H田口	1	0	0
⑦3池田	2	0	0
H金谷輝	1	0	0
③本下	1	0	0
H川口	1	0	0
4滝川之	1	0	0
⑥滝川男	1	0	0
H7和田	0	0	0
①金谷幸	2	1	0
⑨川井	1	0	0
9島田	1	0	0
⑤田中	2	0	0
⑧原	2	0	0
	21	2	0

【親和】打安点

④久住呂	3	1	1
⑧古川	3	1	1
⑤竹山	3	1	0
⑦坂井	3	0	0
3小森	1	0	0
⑨宮添	2	1	0
R9岩	1	0	0
③辻	3	1	2
9村竹	1	0	0
②黒石	4	3	1
①佐々田	2	0	1
⑥岩崎	4	1	0
	30	9	6

轟クラブ、逃げ切る 田平、ツキなく完敗

【二回戦】◇第4試合◇ 振球犠盗失併残

オール田平	000 000 0	0	4	0	0	0	1	0	1	1時間15分
轟クラブ	000 003 X	3	1	3	1	1	1	0	3	【三】東川

【評】轟がワンチャンスを生かして逃げ切った。六回の轟は安打と四球の一死一三塁に道副が浅い右飛。三走の田端がタッチアップから好走よく本塁を陥れた。一走が二盗後に三ゴロ一塁悪送球があり二塁から還って2点目。この後に東川の三塁打で山口が生還。ツキにも助けられたが効率よく勝負を決めた。田平はいい当たりが野手の正面を突くなどツキもなく三塁を踏めず完敗。稲沢が五回まで轟をノーヒットに抑えていただけに打線の援護が欲しかった。

【轟】打安点

⑦浜崎	2	0	0
②中山	3	0	0
⑥道副	2	0	1
③山口玉	1	0	0
⑧東川	3	1	1
⑨川田	3	0	0
④前田	2	0	0
①久世	2	0	0
④田端	2	1	0
	20	2	2

【田平】打安点

⑥下田	3	0	0
④山崎	3	1	0
③福井	3	1	0
①稲沢	3	0	0
⑦柴山	3	0	0
⑧橋村	2	0	0
⑨中村	2	0	0
⑤近藤	2	0	0
②中倉	2	0	0
	23	2	0

大会三日目の23日(月)は準決勝2試合と決勝戦を行なう予定であったが、第1試合の長崎日野自動車-福江ビクトリー戦は五回を終えて1-1同点の場面で降雨激しく翌24日に特別継続試合となった。再開された六回から長崎日野はエースの中村郁をマウンドに送って守りを固める一方、七回に敵失に恵まれて決勝点を挙げて福江ビクトリーの食い下がり振り切った。

準決勝第2試合は親和銀行・高藤と轟クラブ・久世の

投手戦となったが四回に親和の俊足、古川の好走塁で挙げた1点を高藤が守り切った。

決勝戦の長崎日野-親和銀行の対戦は三年連続の顔合わせで大会史上初となったが、失策で1点の先行を許した長崎日野が八回に岩下が逆転の2点二塁打を打ち、中村郁が親和打線をノーヒットに抑えて3年連続優勝に輝いた。

(昭和56年11月25日付けの長崎新聞より抜粋)

【日野】打安点

⑧ 岩下	4	1	0
⑥ 岡村	4	2	0
⑦ 中村義	3	0	0
⑨ 有川	3	0	0
⑤ 鶴嶋	3	0	0
② 岡田	2	0	0
③ 木村	3	1	0
① 古里	2	0	0
1 中村郁	1	1	0
④ 石本	3	1	0
28 6 0			

【準決勝】=第1試合=

	振球	犠	盗	失	併	残	
長崎日野自動車	100	000	1	2	4	1	0
福江ビクトリー	000	010	0	1	9	3	3

1時間46分

【評】1-1で迎えた七回表の日野は先頭の木村が左二塁打。中村郁のバントは内野安打となり投手の一塁への高投を誘って後方にはじく間に木村が還って決勝点となった。

前日に行なわれた五回までは雨中戦。日野が初回に岩下の安打と二盗。捕逸と投手暴投で労せず1点を先取り試合を優位に進めていたが、五回三塁手の送球を二度とも落球して福江に同点に追いつかれた。この回かなり激しい雨が降っていたとはいえ、やや軽率なプレー。それだけに一塁手の木村にとっては汚名返上の一打だった。

日野は同点に追いつかれては決勝戦に備えて温存していた中村をこの日登板させざるを得なくなりウォームアップ不足から高目の球が多く、七回は走者を二塁に置いて一瞬ヒヤリとさせられる当たりをされたが一応無難に福江打線を抑え勝利投手となった。

ビクトリー無念

【福江】打安点

⑧ 本岡	2	0	0
① 坪内	2	1	0
② 林	3	0	0
⑥ 富川	3	0	0
⑤ 田村	3	0	0
① 平山利	3	1	0
③ 田上	3	0	0
⑨ 木場	3	1	0
⑦ 中尾	2	0	0
24 3 0			

轟ク、親銀の足に不覚

【親和】打安点

④ 久住呂	3	0	0
⑧ 古川	3	3	0
⑤ 竹山	1	0	0
⑦ 坂井	3	0	1
③ 小森	2	0	0
⑨ 岩佐	3	0	0
② 黒石	3	0	0
① 高藤	3	0	0
⑥ 岩崎	2	0	0
23 3 1			

【準決勝】=第2試合=

	振球	犠	盗	失	併	残	
親和銀行	000	100	0	1	3	3	0
轟クラブ	000	000	0	0	2	0	0

1時間16分

【評】親銀の高藤が惜しいところでノーヒットノーランを逸した。七回一死まで遊失走者だけだったが、あと二人というところで中山に打たれ惜しくも記録はならなかった。この日の高藤はストライクが先行し特にコースいっぱい投げ分ける制球力は抜群だった。

轟の久世も下手から浮き上がったたり落ちたりする球で好投。古川ただ一人に3安打許したのみだったが、その古川の足にやられた。四回先頭古川の当りは通常の打者なら一ゴロだったが俊足を飛ばして一瞬早く駆け込み内野安打。ただちに二盗し死球後の無死一二塁で坂井は二ゴロ。併殺くずれの間に古川が三塁を回って生還した。これも一塁手が落ちていて投げておれば本塁は際どかったが慌てて高い球を投げて古川を生かしたもの。古川に限らず親銀は足の速い選手が多いのが魅力である。

【轟】打安点

⑦ 浜崎	3	0	0
② 中山	3	1	0
⑥ 道副	3	0	0
③ 山口玉	3	0	0
④ 伊東康	2	0	0
4 立岩	0	0	0
⑤ 山口義	2	0	0
⑧ 伊東幸	2	0	0
① 久世	2	0	0
⑨ 西尾	2	0	0
22 1 0			

天皇賜杯第36回全日本軟式野球大会

S56. 8. 21~・北海道網走市ほか 52チーム参加

- 【一】 親和銀行 3-0 武田薬品清水(静岡)
- 【二】 " 0-1 中筋組グループ(島根)

第3回西日本軟式野球大会〈1部〉

6/7~・島根県 25チーム参加

- 【一】 今福メッツ 1-5 日鉱採油(岡山)

高松宮賜杯第25回全日本・1部は本県から不出場

この年より全日本学童野球大会が始まる

第36回滋賀国体は本県から不出場

この年より九州ミニ国体が始まり各県1チームが参加して、本国体には九州から4チームが出場。

第3回西日本軟式野球大会〈2部〉

5/23~・鹿児島市 25チーム参加

- 【二】 タイガース 1-7 出水ロイヤル(開催地)

高松宮賜杯第25回全日本軟式野球大会〈2部〉

9/13~・岐阜県大垣市ほか 16チーム参加

- 【一】 ファイヤーバード 5-8 誠邦園クラブ(秋田)

長崎日野逆転でV3

善戦親銀また涙のむ

中村郁がノーヒットピッチング

【決勝戦】

振球犠盗失併残

親和銀行	000 000 100	1	3	2	0	0	0	1	2	1時間21分
長崎日野自動車	000 000 02X	2	1	1	1	0	2	0	3	【二】岩下

【評】一時はノーヒットの親和が勝つのでは…と思われた試合。六回までは3人ずつで片付けていた日野の中村が七回に先頭の久住呂を歩かせたのがもとで迎えた一死二塁に竹山の平凡な二ゴロを走者に気をとられた二塁手がトンネルして均衡は破れた。普通ならここで投手はガククリくるものだが中村はよく踏ん張った。これが日野打線の奮起を呼ぶ。

だが回も押し迫った七回での失点。しかも初回にこそ宮本に連打を浴びせたが二回からは立ち直った宮本にさっぱり。安打は五回の木村だけとあっては日野の前途は決して明るいものではなかった。

ところが八回、日野は一死後に木村の四球と中村の左翼線安打で一死一二塁となると石本に送らせ1番の岩下に賭けた。岩下の当りは三塁後方の飛球。本塁から外野に向けて強い風が吹いており外野手は幾分深めに守備していた。遊撃手も左翼手も一瞬躊躇したようだが、左翼手が前進してスライディングキャッチを試みたが差し出したグラブの先に当たってポトリ。逆転の二塁打となった。親和にとってはアンラッキーな当たりで、外角いっぱいによぎるカーブや内角シュートを駆使して好投していた宮本にとってもあきらめきれないものだったろう。

日野の中村は久しぶりの登板とあって五回ごろからヒジ痛を訴え決して最高の出来ではなかったが親和打線はどうも中村を苦手としているようだ。結局1本の安打も打てないままだった。



8回裏長崎日野、二死二三塁に岩下の打球は幸運なテキサス二塁打となり二者相次ぎ生還し逆転。

【親和】打安点

④久住呂	3	0	0
⑧古川	4	0	0
⑤竹山	4	0	0
⑦坂井	3	0	0
③小森	3	0	0
⑨岩佐	3	0	0
①宮本	3	0	0
②黒石	2	0	0
⑥岩崎	3	0	0
28 0 0			

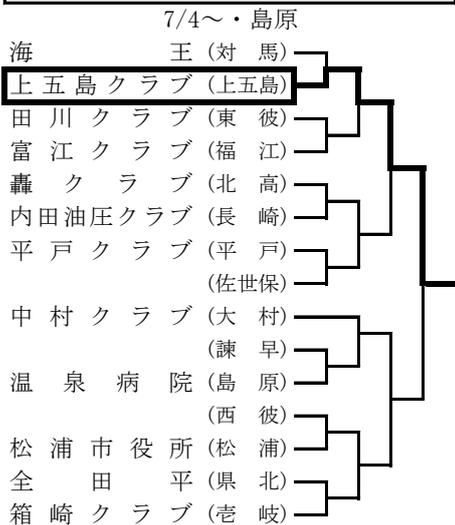
【日野】打安点

⑧岩下	4	1	2
⑥岡村	4	1	0
⑦櫛本	3	1	0
⑨有川	3	0	0
⑤鶴嶋	3	0	0
②岡田	3	0	0
③木村	2	1	0
①中村郁	3	1	0
④石本	2	0	0
27 5 2			

狙っていた 益田孝雄・長崎日野監督の話

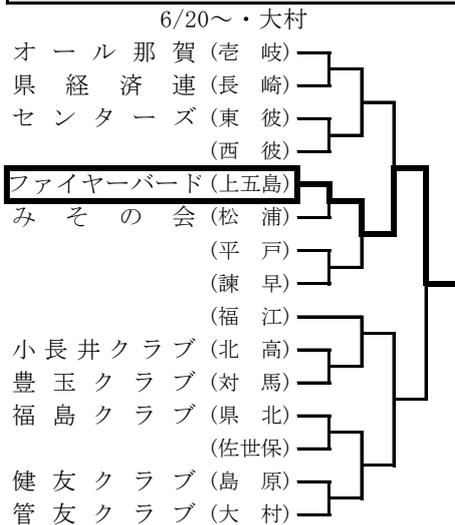
初日にぶざまな試合をしたので二日目からはいい試合をと頑張ったし、特に決勝の親和銀行には春から勝っていないので燃えていた。狙ってはいたが三連覇は難しい。中村がよく頑張ってくれた。

高松宮賜杯第25回1部・県大会



詳細不明

高松宮賜杯第25回2部・県大会



詳細不明

第33回長崎県民体育大会

